

第4次厚真町総合計画 実施計画シート

事業名	敬老会開催事業	担当課		担当グループ		作成者（職・氏名）	
		3	住民課	33	福祉グループ	主事・曾根良介	

実施計画年度（期間）
R 6 年度（ R6 ～ R8 ）

事業評価対象年度
R 5 年度

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成 28 年度	事業主体		会計区分		予算科目				
	事業終了年度	令和 7 年度	1	町	1	一般	03	01	03	0374	001 10
事業の性質	法令に基づかない自主的事业									条例等の有無	無
根拠法令・例規計画等											
総合計画	基本目標	2	健やかで安心なあつま								
	基本施策	6	高齢者福祉・介護の充実								
	施策項目	62	介護予防・生きがいづくりの推進								
	復旧・復興計画	99	その他								
	総合戦略	99	その他								
	厚真町強靱化計画	9999	その他								
政策展開方針（R2～R6）	大項目	9	その他								
	中項目	9	その他								
	施策項目	9999	その他								

2 事業概要（Plan）

事業の目的	厚真町の発展に寄与された 80歳以上の高齢者の方々を対象に、敬老会を開催し長寿を祝う。
事業の内容（手段・方法等）	対象者を招待した敬老会を福祉センターで実施する。 ・90歳以上の方に記念品を贈呈する。 令和元年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大により未開催となった。 令和3年度は90歳以上及び100歳以上に記念品のみ配布し、敬老会開催の代替をした。 令和4年度は自治会や老人クラブで独自に敬老会を開催する場合に補助金を交付し、敬老会の代替を行った。
対 象	80歳以上の高齢者（数え80歳）
成果目標	長寿を祝うと共に、高齢者同士の交流の場を提供する。

3 実施結果（Do）

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		H28（前期1）	H29（前期2）	H30（前期3）	R1（前期4）	R2（前期5）	R3（後期1）	R4（後期2）	R5（後期3）	R6（後期4）	R7（後期5）
		決算→決算見込み→予算→計画	決算→決算見込み→予算→計画	決算→決算見込み→予算→計画	決算→決算見込み→予算→計画	決算→決算見込み→予算→計画	決算	決算	決算	決算見込み	計画
事業費							175	0	1,500	1,603	
特定財源	国支出金										
	道支出金										
	町債										
	その他										
一般財源							175	0	1,500	1,603	
人件費（※4,000+時間給）							207	0	1,932	1,932	
積算根拠							報償費（長寿祝者記念品）175		報償費（長寿祝者記念品、演芸謝礼）251 需用費（消耗品費、食糧費）1,029 役務費（通信運搬費）88 使用料及び賃借料（バス借上料）132	報償費（長寿祝者記念品、演芸謝礼）248 需用費（消耗品費、食糧費）1,120 役務費（通信運搬費）92 使用料及び賃借料（バス借上料）143	
主な年次計画（取組）											
ヒアリング 指示事項 ※企画調整G記入欄											

② 実績・成果

指 標 名 称 （ 前 期 ）			H28（前期1）		H29（前期2）		H30（前期3）		R1（前期4）		R2（前期5）		R3（後期1）		R4（後期2）		R5（後期3）		R6（後期4）		R7（後期5）	
			数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
主 な 活 動 指 標	開催回数	目 標	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回	1	回
		実 績	1	回	1	回	1	回	0	回	0	回	0	回	0	回	1	回	1	回		回
		達成度	100.0	%	100.0	%	100.0	%	0.0	%	0.0	%	0.0	%	0.0	%	100.0	%	100.0	%	0.0	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する								コロナ禍により 開催見送り		コロナ禍により 開催見送り		コロナ禍により 開催見送り		コロナ禍により 開催見送り							
主 な 成 果 指 標	会場収容可能人数／参加者数	目 標	240	人	240	人	240	人		人		人		人		人	240	人	240	人	240	人
		実 績	303	人	288	人	288	人		人		人		人		人	222	人	237	人		人
		達成度	126.3	%	120.0	%	120.0	%	-	%	-	%	-	%	-	%	92.5	%	98.8	%	0.0	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する																					
			対象者人数： 577人		対象者人数： 721人		対象者人数： 728人										対象者人数： 726人		対象者人数： 712人		対象者人数： 769人	

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	長寿者に対し敬老会を開催することは、町の発展に貢献した高齢者を労うものであり、町民の敬老意識の高揚も図られ妥当である。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	参加された高齢者には満足いただいている。また、高齢者の外出を促す機会となり、高齢者福祉の増進につながっているため有効である。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	A	年1回一堂に会しての開催であり、多くのボランティアの参加を得ておりコスト面から見ても適正である。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等 (Action)

予算	継続 (現状維持)	サービス	継続 (現状維持)	方向性	現状維持
理由	参加した高齢者が、町の発展に貢献したことに対する労いを感じていただくサービスは維持する必要がある。 また、数え年で80歳以上の高齢者の方々が一堂に会する機会となり、外出を促すいい機会となっているため。				
課題および改善提案	・コロナが落ち着いてきたこともあり対象者数がやや増加傾向のため、総合福祉センター大集会室の収容人員が飽和状態である。 28テ-ブル×10人ー来賓5人ー施設職員35人=240人 ・飲食物の提供量について、持ち帰りの際は食中毒のリスクがあるため検討が必要である。持ち帰らなくても済むような量に変更など要検討。 ・参加者が固定化されてきている現状がある。 ・外出しづらい高齢者や、飲食を伴う交流を好まない高齢者もあり、敬老のあり方について検討が必要。				

※予算・サービスは「継続 (拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択する。

6 内部評価 (本欄は、内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

予算	継続 (現状維持)	サービス	継続 (現状維持)	方向性	現状維持	意見	今後の事業の方向性として、飲食物の提供に留まるイベントではなく、他のイベントの開催も視野に検討してはどうか。
----	-----------	------	-----------	-----	------	----	--

7 外部評価 (本欄は、外部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

評価実施年月日	R 7 年 1 月 27 日	予算	継続 (現状維持)	サービス	継続 (現状維持)	方向性	現状維持
付帯意見 (全体意見)	○ある年を境に急激にニーズが変化するので、今後のニーズの変化を注視し、柔軟さが求められる事業である。 ▶以上から、予算・サービス・方向性を現状維持のうえ事業を継続することが望ましい。						
その他意見 (個別意見)	○5年ごとに事業内容を見直し、その時々ニーズと事業内容が合致しているかを検討することが望ましい。						

8 外部評価に対する町の考え方

回答年月日	R 7 年 3 月 6 日
○事業において高齢者のニーズを確認し、開催方法等について検討するとともに、参加できない方への敬老のあり方についても併せて検討します。	